

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	共励こども園
担当者名	今井ゆきの

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

本園が所有するプレイパークにて、さまざまな自然活動を経験する。自発的な遊びの体験を通し、子供の興味関心を引き出す。

2. 活動スケジュール

5月 5歳森のようちえん活動
7月 5歳お泊まり保育
10月 3・4歳園外保育
11月 3・4歳園外保育 5歳森のようちえん活動
3月 5歳お別れ遠足

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

森の中の道を散策するため、また森の中で活動するために、安全面に注意しながら下見人の配置を考える。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「森のかくれんぼう」という絵本を題材にして森の中でかくれんぼをして遊んだ。子供達は大人が考えつかないような隠れ場所を見つけていた。
回を重ねるごとに体の使い方が上手になり、少し危険なことにもチャレンジするようになっていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子供達は、森の中でさまざまなものを見つけて保育者に質問をする。保育者は子供達の知見を広げるために、それに丁寧に対応していた。
かくれんぼ遊びでは、はじめは子供たちが隠れ、次は保育者が隠れ、と順番で遊ぶ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

季節によって自然に変化があるので、その違いに気がつくことができた。

子供達は遊び（かくれんぼ等）を楽しくする、遊びを広げることがとても得意で、大人も遊び方を教わるほど出会った。

同じ遊びでも、園庭でやるのと整備されていない自然の中でやるのとでは大きな違いがあることに気づいた

令和7年度(2025年度)とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	共励第二こども園
担当者名	長田豊司

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然活動

<テーマの設定理由>

自然の中での子供の姿は本当に生き生きとし、大人から与えられた遊びではなく、自主的に遊びを選択し、身体能力を高めていく。自然に触れる感動（センス・オブ・ワンダー）や、自然の危険性を体感しながら、自ら遊びを探し出したり、自発的に遊ぶ体験を通し、子供の興味関心をさらに深めるため。自然遊びのテーマ（森のようちえん活動）ごっこ遊びにテーマ（探偵ごっこ）

2. 活動スケジュール

6月 年中：梅の実狩り、梅ジュースを作ろう
7月 年長：合宿
9月 年中：天狗汁の調理保育・プレイパークの薪拾い
11月 年中：きのこスープを作ろう
年長：森のようちえん活動
12月 年中：森のようちえん活動
1月 年中：森のようちえん活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

自園が所有するプレイパークでの自然探求活動を継続的に活用できるよう、昨今の気象状況に備え、雨天時や夏季の高温時等でも自然活動が屋外でできるよう、雨よけ・紫外線避けテントを設ける。また、自然の中で不慮の事故や怪我等のリスクを最小限とするために敷地の維持管理する。

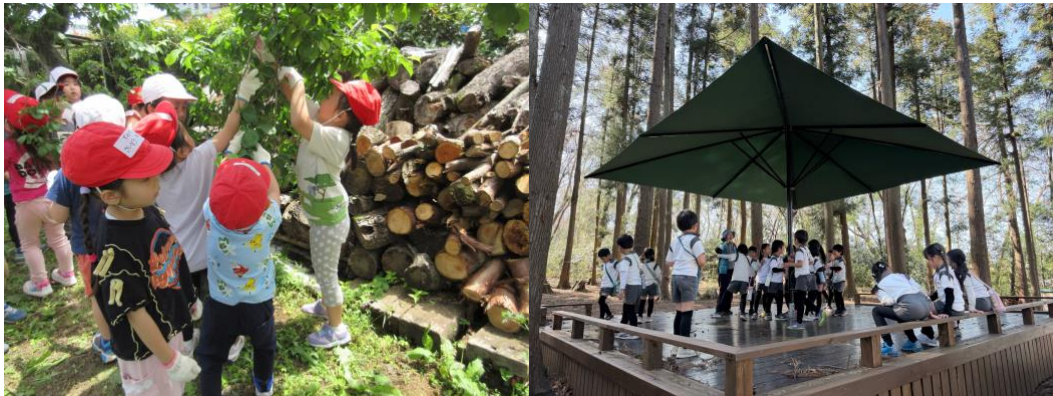
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ごっこ遊び（総合保育）を介して自然の中で食育の体験をする。（梅の実狩り、梅ジュースを作ろう、天狗汁の調理保育・プレイパークの薪拾い、きのこスープを作ろう）年長組の自然活動（夏季の合宿・森のようちえん活動）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自然環境の中でとごっこ遊びのイメージを膨らませて遊びに入り込む子供たち。ごっこの世界があるからこそ、変哲もない自然物が宝の宝庫となります。落ちている枯れ枝と大きな葉っぱを見立てて釣りごっこが始まったり、ごっこのキャラクターから紹介された原義が出るスープを作って食事をしたり、ファンタジーと現実が交わりながら遊びの世界が広がります。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

プレイパークで自生する梅の実を使った、自然豊かな食育活動。梅の実をもぐのはとても楽しかったようで、あっという間にカゴいっぱいの実が揃いました。梅ジュース作りでは時をかけて、ジュースが出来上がる工程に付き添うことで、「待つ」といった忍耐にも通ずる活動ができました。ごっこ遊びのイメージを広げながら自然の中でたくさん遊びました。今後も子供の健康や安全な発達を考慮しながらも、ただ楽しいだけでなく、雨・風・暑さ・寒さ等、自然の厳しさと同時に恐れも感じながら、感受性が豊かになる活動を展開していきたい。